

第一問

- 一 ア 方途    イ 離島    ウ とぼ（しさ）    エ あわ（てる）    オ うるお（し）  
 カ 休憩    キ しりぬぐ（い）    ク 配偶者    ケ ぼうだい    コ 扶助

- 二 a 所得の低さ    b 生活状態

三 AはBより高い所得を得ているが、認可保育園の抽選に外れ、子供を高額な無認可保育園に預けざるをえないため、抽選に当たったBよりも自由に使えるお金が少ない。

- 四 (1) 危機に対する緩衝材の役割を果たし、利益を生み出すための源泉となる。（33字）  
 (2) 自由（自由度）

五 当面の生活や求職活動を行うのに必要な、貯金などの金銭的な「溜め」。家族・親族・友人などの頼れる人がいるという、人間関係の「溜め」。失業中であっても自信や自尊心を保つことのできる、精神的な「溜め」。

六 貧困を単に所得の低さと理解するのではなく、個々人が望ましい生活状態を達成するための個人的・社会的自由を失っている状態と捉え、そのうえで、社会がそうした自由の増大を模索していくことの重要性を示唆している。

第二問

- 一 a ウ b イ c エ
- 二 B
- 三 ア 夫にしていた
- イ 世の中にこのような幸運な人もいたのだなあ
- 四 隆姫が、いとこの憲定がのこした娘二人を、無縁でないからと自邸に引き取ったこと。
- 五 (1) 対の君が、頼通の家から退出して、実家にいることがしだいに多くなってゆくという意味。
- (2) よりによって対の君が頼通の寵愛を受けている様子を、隆姫が気に入らないと思っっているようなので、対の君はいたたまれない気持ちになったから。
- 六 生まれてきてくれることを長年にわたって待ち望んでいた頼通の子に、喜ばしくもこの春にめぐり会えたことだ、その幼子よ。

第三問

- 一 あえてたがわ<sup>(1)</sup>ざるなり。(あえてたがわ<sup>(2)</sup>ず。)
- 二 山中の実のなる木は狙公が植えたものなのか。
- 三 狙公が猿たちを欺いて働かせても、欺かれていると悟った猿たちに逃げられて狙公が餓死したように、為政者が人々を騙して使役したとしても、ひとたび詐術だと気づけば、人々は騙されなくなるから。